

# 愛知県の医療ツーリズム推進 について



愛知県  
健康福祉部保健医療局医務課  
主査 山川 高英

## 1 経緯

## 2 愛知県の取組

## 3 県内の状況

きっかけは・・・

### 愛知県 大村知事の「思い」



- ・人口減少と高齢化の進展
- ・国や地方の財政状況の悪化
- ・活力の喪失、衰退



- 医療ツーリズムによって、
- ・新たな需要の掘り起こし
  - ・既存の医療資源の有効活用
  - ・医療水準の維持
- + 優れた医療技術の活用による  
医療の国際化を推進

さらに、

様々な強みもある。

- ・4つの大学病院
- ・優れた医療技術と最先端の医療機器
- ・24時間運用の中部国際空港（名古屋駅まで30分）
- ・ビジネスジェットにも対応できる名古屋空港
- ・医師会の理解



## 平成28年5月 「あいち医療ツーリズム研究会」設置

公益社団法人愛知県医師会 会長（座長）  
一般社団法人愛知県病院協会 理事  
一般社団法人愛知県歯科医師会 会長  
名古屋大学医学部附属病院 院長  
名古屋市立大学病院 院長  
愛知医科大学 学長  
藤田保健衛生大学 学長  
医療法人偕行会 理事長  
医療法人松柏会 専務理事  
あいち健康の森健康科学総合センター センター長



5

## 重要な前提として、

医療ツーリズムを実施する医療機関においては、医療機関の受入余力を活用して、外国人患者に日本の医療サービスを提供することが前提であり、医療ツーリズムで訪日する外国人患者の診療、治療は、地域医療に影響を及ぼさない範囲で実施するよう十分な配慮が必要。

6

## 平成28年11月 「医療ツーリズム推進に向けた提言」

○医療機関向け調査から課題を整理し、医療ツーリズム推進に向けた6つの方策を提示した。

- 1 あいち医療ツーリズム推進協議会の設置
- 2 関係機関と官民一体となった医療ツーリズムの推進
- 3 先進事例の情報提供など県内医療機関への医療ツーリズム推進に向けた取組の支援
- 4 海外への愛知の医療ツーリズムに関する情報発信の強化
- 5 国際医療コーディネーターの活用による円滑な医療ツーリズムの実施
- 6 国家戦略特区による規制緩和の活用



7

## 1 経緯

## 2 愛知県の取組

## 3 県内の状況

8

### 《方策1》 あいち医療ツーリズム推進協議会の設置

⇒平成29年2月に設置（18団体 ←10団体「研究会」）

※以降、平成29年7月、平成30年2月、平成30年7月に開催

- 公益社団法人愛知県医師会 会長(会長)
- 一般社団法人愛知県病院協会 会長
- 一般社団法人愛知県歯科医師会 会長
- 名古屋大学医学部附属病院 院長
- 名古屋市立大学病院 院長
- 愛知医科大学 学長
- 藤田保健衛生大学 学長
- 愛知学院大学歯学部附属病院 院長

- 医療法人偕行会 理事長
- 医療法人松柏会 専務理事
- 独立行政法人地域医療機能推進機構中京病院 院長
- 名古屋第二赤十字病院 院長
- 国立研究開発法人国立長寿医療研究センター 理事長
- 愛知県がんセンター 運用部長
- あいち健康の森健康科学総合センター センター長
- 中部国際空港株式会社 代表取締役社長
- 一般社団法人中部メディカルトラベル協会 事務長
- 愛知県政策顧問

### 《方策2》 関係機関と官民一体となった医療ツーリズムの推進

⇒あいち医療ツーリズム推進協議会を活用するなどし、官民一体となって医療ツーリズムの推進に取り組む。

○提言された全ての方策の具体化に向けて、次ページ以降に示すような施策を実施している。

### 《方策3》 先進事例の情報提供など県内医療機関への医療ツーリズム推進に向けた取組の支援

⇒「愛知の医療ツーリズム推進シンポジウム」の開催（平成29年10月）

○講演

東京大学医学部附属病院 国際診療部 副部長 山田秀臣 氏

○事例報告

- ・多摩大学大学院 教授 真野俊樹 氏
- ・藤田保健衛生大学 学長 星長清隆 氏
- ・医療法人偕行会 病院医療事業部 国際医療部 部長 高橋忍 氏

○パネルディスカッション

- ・多摩大学大学院 教授 真野俊樹 氏 (コーディネーター)
- ・公益社団法人愛知県医師会 会長 柵木充明 氏 (コーディネーター)
- ・東京大学医学部附属病院 国際診療部 副部長 山田秀臣 氏 (パネリスト)
- ・藤田保健衛生大学 学長 星長清隆 氏 (パネリスト)
- ・医療法人偕行会 理事長 川原弘久 氏 (パネリスト)

⇒「愛知の医療ツーリズム推進トップセミナー」の開催（平成30年9月）



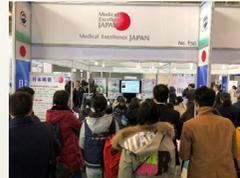
【パネルディスカッション】

【講演（東大病院 山田先生）】

## 《方策4》 海外への愛知の医療ツーリズムに関する情報発信の強化

⇒中国の北京で開催される「国際医療旅游展覧会」に出展し、海外の医療関係者等に向けて、本県の医療ツーリズムについてのPRを行う。

- (1) 日程 平成30年11月16日(金)～11月18日(日)
- (2) 会場 中国国際展覽センター(北京市)
- (3) 概要 本県の出展ブースにおいて、新たに制作するDVD、チラシ等を活用しながら、県内医療機関と共同でPR及び医療相談を実施する。



【昨年度の様子】

13

## 《方策5》 国際医療コーディネーターの活用による円滑な医療ツーリズムの実施

⇒「国際医療コーディネーター育成研修」の実施(平成29年12月)

- 講義
  - ・医療の国際化の動きと最新情報
  - ・組織におけるコーディネーターの位置づけ・取組の可能性と課題
  - ・医療ツーリズムのモデルケース(マッチング～受入れ～フォローアップ)
  - ・外国人医療における法的な問題とその予防
- 事例検討
  - ・訪日を支援する企業の活用、遠隔通訳プログラムの活用(連携事例)
- 演習
  - ・ビザ(査証)、医療通訳、国籍・文化の違いによる注意点、未収金発生防止等

⇒平成30年度も研修を実施(平成30年12月(予定))

14



【講義(多摩大学 真野教授)】



【グループワーク】

15

## 《方策6》 国家戦略特区による規制緩和の活用

⇒国家戦略特区を活用し、新たな規制改革事項を国へ提案している。(平成28年11月)

- できるだけ早期に治療が必要な外国人患者の医療滞在ビザ発給を迅速化  
医療滞在ビザにつき、一定の条件を満たした場合には、申請書類の簡素化や最優先審査等により、申請から発給までの期間を大幅に短縮する(できれば即日発給)。
- 短期滞在ビザでの滞在中における、在留期間の延長や在留資格の変更  
短期滞在ビザ(観光、商用、親族・知人訪問)で訪日した外国人が滞在中に、①病気や事故に遭い、治療が必要となった場合や、②検診を受けた結果、一旦帰国することなく治療を望んだときは、帰国できる状態であっても、在留期間の延長や在留資格「特定活動」への変更を認める。<追加提案>

16

# 1 経緯

# 2 愛知県の取組

# 3 県内の状況

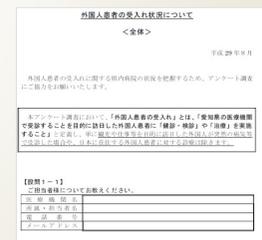
17

## 「外国人患者の受入れ状況に関するアンケート」

○医療ツーリズムの現状及び推進に当たっての課題について  
明らかにするため、平成28年度から県内の全病院を対象とし、  
外国人患者の受入れ※状況に関するアンケート調査を実施している。

※「外国人患者の受入れ」とは、「愛知県の医療機関で受診することを目的に  
訪日した外国人患者に「治療」や「健診・検診」を実施すること」と定義。  
単に観光や仕事を目的に訪日した外国人が突然の病気で受診した場合  
や、日本に在住する外国人患者に対する診療は除く。

- (1) 対象期間 調査実施の前年度分（1年間）
- (2) 対象主体 県内の全ての病院（320程度）
- (3) 調査方法 電子メール又はFAX



18

## 「外国人患者の受入れ状況に関するアンケート」(平成29年度)結果①

### 平成28年度の一年間において、

- ・ 県内の 17病院（予定含む）が外国人患者の受入れを実施
- ・ 全体で 244名 の外国人患者を受入れ

※平成27年度は、県内の16病院（予定含む）で、224名を受入れ

19

## 「外国人患者の受入れ状況に関するアンケート」(平成29年度実施) 結果②

- ・ 外国人患者の受入れを実施している16病院のうち、4病院は過去1年以内に実施を開始している。
- ・ 健診・検診分野、治療分野ともに、中国からの受入数が最も多い。
- ・ 受入れをしている診療分野・診療科は、健診・検診が最も多く、次いで循環器科、消化器科が多い。
- ・ 価格設定は、「診療報酬単価と同じ又はそれ以下」、及び「診療報酬単価の2倍以上」が多い。  
次いで、診療報酬単価の1.1倍以上～2倍未満が多い。
- ・ 外国人患者受入れのために実施している（しようとしている）こととしては、「医療通訳を院外から必要に応じて手配」、「契約書、同意書、検査内容説明書等の各種文書の多言語対応」、「多言語に対応した院内表示」などが多い。

20

## 県内医療機関の外国人患者の受入りに係る認証取得

- JIH (ジャパン インターナショナル ホスピタルズ)
  - ・藤田保健衛生大学病院
- JMIP (外国人患者受入れ医療機関認証制度)
  - ・藤田保健衛生大学病院
  - ・偕行会 名古屋共立病院
- JICI (ジョイント コミッション インターナショナル)
  - ・藤田保健衛生大学病院 (予定)
  - ・名古屋第二赤十字病院

21

## 県内医療機関等の取組例①

- 藤田保健衛生大学病院
  - 手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」
  - インバウンド向け専用施設「国際医療センター」 (特別室)



22

## 県内医療機関等の取組例②

- 偕行会 (名古屋共立病院)
  - インバウンド向け専門部署「国際医療部」 (中国人スタッフ常駐)



23

## 県内医療機関等の取組例③

- 一般社団法人 中部メディカルトラベル協会※
  - 訪日外国人患者の受入りに当たってのコーディネーター

※医療機関や旅行代理店等を会員とし、医療を希望する訪日旅客を海外から中部に誘致するための活動を行う団体

**診断名** 肝臓がん(ステージ4) **国籍** 中国(41歳・男性)

**来日経緯** 中国にて肝臓がんと診断後、肝移植手術をするもがんが再発。抗がん剤治療の経過が悪くなり、再度肝移植を勧められた為疑問に思い、日本での治療方法を求め来日。

**日本での検査** CT、MRI、PET-CT、遺伝子検査、血液検査等

約3週間の検査入院で費用も高額ではあったが、概算見積りを提示し丁寧に説明を行ったことで、全額前金にて支払いいただき、費用のトラブルは一切無かった。入院時も、通訳との連絡用の専用携帯電話を貸し24時間サポート体制をとることで、患者と医療機関側の不安を解消することができた。

24

ご清聴ありがとうございました